



妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校
電話 048(588)1361
FAX 048(589)0496
令和8年4月24日
第2号

地域の方々から教えていただいたこと～道しるべ～

校長 清水 利浩



西中北門にて R8.4.13 撮影

妻沼西中学校の北西端にある石碑に「道しるべ」が示されている。これを3月の学校だよりで取り上げた。この学校だよりをご覧いただいた地域の方からお手紙をいただいた。

この方は、いろいろと聞き取りをして調べて、教えていただいた。本当に感謝である。

まず、東西南北の行き先が書かれている道しるべについて、正解を示していただいた。

東 めぬまみち 西 ほんしやうみち、
南 くまかやみち 北 できじまかし

さらに、この石碑がつくられた年号も正解をいただいた。

明和九壬辰（めいわ 9 みずのえ の たつ）。

これは、1772年である。今から252年前のもの。

社会科の先生にこの話をしたら、「1772年は江戸時代の田沼意次が老中に就任した年だ」と即答してくれた。63年目の妻沼西中学校は、当然のことできていない。今の道も当時はあったのだろうか。そして、この道しるべを利用した人々は、どこに向かったのだろうか。

北に向かうと、出来島河岸があった。河岸とは、船着き場のことである。出来島の船着き場から、利根川を上ったり下ったり。江戸(東京)にも行くことができた。たくさんの船が往来し、どこに向かったのだろう。どんな目的があったのだろう。

西の本庄には、何があったのだろう。南の熊谷に行く目的は。

東の妻沼に向かう旅人は、聖天様にやってきたのかな。妻沼聖天山の本殿「歓喜院聖天堂」は、宝暦10年(1760年)に再建されている。ということは、12年後に石碑が設置。もしかしたら、たくさんの人が聖天様にやってきて、道に迷わないように作られた道しるべかもしれない。ふだん何気なく通り過ぎている道の端に、何か大きな歴史のロマンが隠されているようだ。わくわくするのは私だけか?地域の方々、いろいろと教えていただき、ありがとうございます。

